

短時間通所リハを強力な武器としたI・HNの構築を目指す 地域ナンバーワン法人への挑戦

医療法人社団淳英会——千葉県千葉市



2012年の介護報酬改定では、通所介護が実質的にもっともマイナス幅の大きいサービスとなったが、その一方で個別機能訓練や短時間の通所リハビリテーションの強化が評価された。こうした効果的なりハ重視の姿勢は、介護予防や要介護度の重症化防止が問われる今後、ますますその重要性が高まっていく。そこで今回は、リハビリテーションに特化したシームレスなケアで高い評価を得ている、医療法人社団淳英会（理事長：山下剛司氏）を訪ね、そのビジョンと具体的な戦略について聞いた。

I・HNの構築にむけて 地域ナンバーワンを目指す

千葉市緑区は、千葉市を構成する6つの区のひとつ。千葉市が政令指定

都市になった、1992年に誕生した新しい区であり、以後、区内では各地で宅地造成が進み、なかでもJR外房線鎌取駅を中心とするおゆみ野周辺は、千葉市の代表的ニュータウンとなっ

ている。医療法人社団淳英会は、このおゆみ野地区に、強化型在宅療養支援診療所、整形外科クリニック、介護老人保健施設を中心に展開する医療法人である。

去る10月1日には、JR鎌取駅前にあるイオン鎌取店内に、地域包括支援センターである「千葉市あんしんケアセンター鎌取」を開設。さらに、2014年春には、総病床数149床の「おゆみの中央病院【仮称】」開設を予定しているなど、同法人の積極的な運営姿勢には、近隣の医療・福祉関係者の多くが注目している。

理事長で、おゆみの診療所副院長でもある山下剛司氏は、同法人の理念について、次のように語る。

「医療と介護を中心とした職務につ



理事長 山下剛司氏

「おゆみの診療所」は、19床の有床診療所。同法人としてリハに特化し、短時間通所リハに力を入れている。一方で有床診療所であることは、隣接する老健や在宅医療を受けている患者にとって、急変時のためのバックアップとして、非常に心強い存在ともなっている。



用者)において、これらの違いは明確ではないが現実である。一方で、2012年の介護保険制度の改定においても、医療と介護連携は、大きなテーマとして示されている。こうしたなかで同法人

は、上記の法人理念を実現するための戦略として、統合ヘルスケアネットワーク(IHN)の構築を掲げている。「IHNの中心となるのが、2014年にオープンする予定のおゆみの中央病院【仮称】で、内科・整形外科を中心にした病棟が99床、回復期リハビリテーション病棟が50床、合計149床となります。また現時点ですでに、法人の中核となるおゆみの診療所では、200名以上の患者の在宅医療を行っています。悪化した場合のバックアップのための病

床という機能も持たせませう」
 このように、新しく設立される「おゆみの中央病院【仮称】」を中心に、その入口として、すでに地域で開業している「おゆみの診療所」や「おゆみの整形外科クリニック」がある。一方で、介護領域の機能としては、「介護老人保健施設おゆみの」や「千葉市あんしんケアセンター鎌取」がある。つまり、医療の入口である2つの診療所の外来と、介護の入口である地域包括ケアセンター等があり、そこでその患者あるいは利用者にとって、最も適した医療やサービスを提供していく。これがIHNの考え方であり、こうした有機的な医療・介護のネットワークによって、おゆみ野地区での医療と介護のリーダーを目指すというのが、同法人の戦略であると山下理事長は話す。

病院新設については、気になるのが人材の確保と育成だ。同法人では、看護師の人材確保については、全国へ担当者が向くと同時に、地元に住んでいるキャリアにブランクのあるナースを非常勤として確保し、その後、常勤へステップアップしてもらうなどの方策を取っている。また24時間対応の保育環境、住宅補助など福利厚生にも十分に力を入れている。教育プログラムでは、ナッシンググラダーに沿った卒業教育、さらに法人独自のキャリアアップ制

度により、認定看護師や特定看護師取得のバックアップを積極的に行っている。一方で、私たち法人では、社会貢献の一環として、サッカークラブチームへのリハビリ関連スタッフの派遣や小中学校の部活動などに対して、ボランティアでリハビリ関連スタッフを派遣し、ストレッチや障害予防の指導を行っています。また診療所はもちろん、地域のスポーツクラブでの健康教室の実施や、老人会など地域コミュニティとともに実施している地域清掃活動への参加なども、安心できる社会を創造するという法人理念の一環として、積極的に取り組んでいます」

**先駆的に取り組んだ
短時間通所リハ**

医療法人社団淳英会の医療・介護施設の中で、その先駆けとなったのが、平成8年(1996年)に開設した「おゆみの整形外科クリニック」である。JR鎌取駅にほど近い繁華街にあるクリニックは、整形外科、スポーツ整形、リハビリテーション科を診療科として掲げており、同法人の創立者である本田英義院長を中心に、9名の理学療

「おゆみの診療所」は、19床の有床診療所。同法人としてリハに特化し、短時間通所リハに力を入れている。一方で有床診療所であることは、隣接する老健や在宅医療を受けている患者にとって、急変時のためのバックアップとして、非常に心強い存在ともなっている。

「おゆみの診療所」は、19床の有床診療所。同法人としてリハに特化し、短時間通所リハに力を入れている。一方で有床診療所であることは、隣接する老健や在宅医療を受けている患者にとって、急変時のためのバックアップとして、非常に心強い存在ともなっている。

「おゆみの診療所」は、19床の有床診療所。同法人としてリハに特化し、短時間通所リハに力を入れている。一方で有床診療所であることは、隣接する老健や在宅医療を受けている患者にとって、急変時のためのバックアップとして、非常に心強い存在ともなっている。

「おゆみの診療所」は、19床の有床診療所。同法人としてリハに特化し、短時間通所リハに力を入れている。一方で有床診療所であることは、隣接する老健や在宅医療を受けている患者にとって、急変時のためのバックアップとして、非常に心強い存在ともなっている。

「おゆみの診療所」は、19床の有床診療所。同法人としてリハに特化し、短時間通所リハに力を入れている。一方で有床診療所であることは、隣接する老健や在宅医療を受けている患者にとって、急変時のためのバックアップとして、非常に心強い存在ともなっている。

「おゆみの診療所」は、19床の有床診療所。同法人としてリハに特化し、短時間通所リハに力を入れている。一方で有床診療所であることは、隣接する老健や在宅医療を受けている患者にとって、急変時のためのバックアップとして、非常に心強い存在ともなっている。



おゆみの整形外科クリニック
 院長 本田英義氏

の創立者である本田英義院長を中心に、9名の理学療



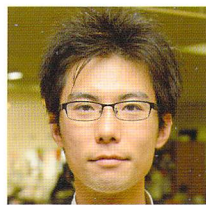
医療法人社団淳英会の施設の中で、その先駆けとなったのが「おゆみの整形外科クリニック」。医療保険に基いたリハはもとより、介護保険制度の短時間通所リハを活用し、リハビリテーションによるシームレスな支援を実現している。理学療法士が11名いるなど、リハに特化したサービスに、地域住民からの評価も高い。

法士が、高齢者からスポーツでケガをした人まで、さまざまなタイプの患者のケアに当たっている。院内にはテクトロンやマイクログ波、干渉波や牽引などの機器を用意した物理療法室や、広々としたリハビリ室が整備されている。

本田院長は整形外科の専門家という観点から、その戦略や経営ビジョンについて、次のように語る。

「現在の地域の問題は、リハビリを受けられなかったり自宅での生活ができなくなってしまう。しかも自分の足ではもちろん、家族の送迎も期待できずに、診療所や病院に行くことができないような人に、どうやってリハビリを受けてもらうかということ。そういう意味で、短時間通所リハビリテーションに、地域の先駆けとして、

制度の開始時から積極的に取り組んできました。今後、治療は予防に、そして医療は介護にとシフトしていく中で、それを支えるサービスのひとつとして短時間通所リハビリテーションは、絶対に必要なことだと思っています」



おゆみの診療所
通所リハビリテーションリーダー
作業療法士 高橋 顕氏

こうした考えから同法人では、「おゆみの整形外科クリニック」はもとより、「おゆみの診療所」でも、短時間通所リハビリテーションに力を入れている。「おゆみの診療所」の通所リハビリテーションのリーダーである作業療法士の高橋顕氏も、「例えば

外来でリハをやっている場合、医療保険の算定制限や、家庭の事情で送迎などの足が無くなってしまったなどの理由で、継続的なリハビリが提供できなくなってしまうケースがよく見られます。こうした場合でも、短時間通所リハがあれば、引き続き継続してリハの機会を提供できる。これが大きなメリットだといえるでしょう」と話す。

リハビリと共に重視する 地域における在宅医療

法人が掲げる統合ヘルスケアネットワークの一翼を担うのが、「おゆみの診療所」だ。この診療所は、平成15年（2003年）に、一般病床19床を持つ有床内科クリニックとして開設された。その後、平成21年（2009年）年に外来診療部門とリハビリテーション科の増築棟がオープン。この年からは、通所リハビリテーション（48名）を開設した。

「おゆみの診療所」は、地域の二次診療を担う医療機関として、内科、整形外科、外科（消化器科）、リハビリテーション科を標榜している。医師は常時2〜3名で診察を行い、さらに近隣の総合病院より非常勤医師を招き、内科系では呼吸器内科と循環器内科を、整形外科系では脊椎専門外来やハビテーション専門外来と、専門的な診療にも取り組んでいる。

診療所にはMRIやCTをはじめ、内視鏡検査室、嚥下造影検査用のビデオレントゲン装置も完備。整形外科に強みをもつ医療法人ならではの、侵襲の少ない関節鏡視下手術にも対応している。

同診療所におけるリハビリ重視のスタンスは、「おゆみの整形外科クリニック」と同様で、医療保険のリハビリテーションと介護保険に基いた通所リハビリテーションや短時間通所リハビリテーションを提供している。

さらに「おゆみの診療所」では、在宅医療も大きな柱となっており、現在、特別養護老人ホームや有料老人ホームなどの施設と個人の患者、合計約200名が、在宅医療の患者になっている。同診療所で在宅医療を担当する

副院長の佐野大氏は、「強化型在宅療養支援診療所として、がんのターミナルの方や自宅でのお看取りの方などに24時間365日の対応を行っているのはもちろんの事、当法人の特長であるリハビリテーションという点を活かし、ADLができるだけ落ちないようにして、ご家族によるケアによって、可能な限り自宅で過せるよう支えていくことが重要だと考えています」と話す。



おゆみの診療所
訪問リハビリテーション
作業療法士 川原 恵りか氏

また、在宅医療の中でリハビリテーションを活かすという意味から、同法人では訪問リハビリテーションにも力を入れている。例えば作業療法士の川原恵りか氏は、「訪問リハビリテーションでは、利用者さん一人一人に担当が割り当てられていて、1日に5〜7件くらいの利用者さんの自宅を回ります」と話す。



おゆみの診療所
訪問リハビリテーション
作業療法士 近藤 由香氏

また作業療法士の近藤由香氏は、「通所リハに比べると、在宅では利用者さんの家族が関わってきますので、家族とのコミュニケーションによって、問題が解決することも少なくありません」と話し、急性期を担

診療所に隣接しているのが、「介護老人保健施設おゆみの」。本来の中間施設としての役割を果たすことを使命に、リハビリテーションに力を入れ、入所者の在宅復帰やADLの向上に取り組んでいる。



おゆみの診療所
訪問リハビリテーション
言語聴覚士 黒川智美氏

普段から利用者さんへのケアしている家族の皆さんと、私

う医療保険のリハから、生活期をフォローする介護保険のリハまで、シームレスなケアの重要性を強調する。
言語聴覚士として訪問リハに携わる黒川智美氏も、「言語に関して、あるいは嚥下に関する」ことでも、在宅で



たち専門職がコミュニケーションをとることで、問題解決につながるものが少なくありません」と話し、訪問リハの重要性を指摘した。



おゆみの診療所 介護福祉士
介護支援専門員
社会福祉主事 今井敦士氏

同診療所の介護福祉士で介護支援専門員の今井敦士氏

は、「特に私共の生活圏域では、外来リハで途中ドロップアウトしてしまう方々の多くはアクセスの部分に課題を抱えている事がわかってきました。まずこういった部分の解消を目指したいと考えてきました。又、現在では様々な特徴を持った

通所系サービスがあります。必ずしも生活期リハビリテーションの部分と、いわゆるお預かりサービスといった部分がセットで無くとも、それぞれが得意な部分を活かして地域全体で生活を支えるような仕組みになって行けたら、それも一つの理想の形だと思えます。」と解説した。

**医療法人が医療に固執する
そういう時代は終わった**

「おゆみの整形外科クリニック」、「おゆみの診療所」と合わせて、地域における淳英会の柱となっているのが、「介護老人保健施設おゆみの」である。施設は「おゆみの診療所」と隣接しており、壁一枚を隔てて、診療所と老健の

職員が行き来できる環境にある。

施設の入所定員は一般棟50床（4人床11部屋、2人部屋2部屋、個室2部屋）、認知症専門棟50床（4人床11部屋、個室6部屋）で、これらにショートステイも含む。通所リハビリテーションの定員は40名（介護予防も含む）で、理学療法士4名、作業療法士2名が、在宅復帰を視野に入れたりリハビリを提供している。



介護老人保健施設おゆみの
リハビリテーション科副主任
理学療法士 安齋龍治氏

理学療法士でリハビリテーション科副主任の安齋龍治氏

は、「特別養護老人ホームとの差がないと指摘されることが多い老健ですが、私たちはリハビリテーションに強みを持つ施設として、在宅復帰と継続的な在宅での生活を支援する、老健本来の中間施設としての役割を中心的に担って行きたいと考えています」と話す。

一方で同法人では、医療と介護の更なる連携を目標に、昨年12月に老健内に「おゆみの居宅介護支援事業所」を開設。医

療法人系列の居宅介護支援事業所として、医療ニーズの高い人や、リハビリに強い意欲を持つ利用者のケアマネジメントを積極的に受け入れているという。リハビリテーションという考え方を中心にして、医療と介護の両輪で、地域ナンバーワンを目指す同法人。まとめとして理事長の山下氏は、次のように話してくれた。

「経営者という視点から考えると、医療法人が医療だけに固執して、それ以外はやらないという時代は終わったと思います。積極的に患者さんのニーズを汲み取り、介護の分野に進出すべきであり、その中で、短時間通所リハビリというのは、私たちのような整形外科を基盤とした医療法人が、積極的に活用すべき分野なのです」

（文／瀬沼健司・撮影／大仲宏忠）

医療法人社団淳英会

◆Information
〒266-0031 千葉県千葉市緑区おゆみ野3-22-6
TEL: 043-293-1118 FAX: 043-293-1117
URL: <http://oyumino-seikei.jp/>
（おゆみの整形外科クリニック）

- おゆみの整形外科クリニック
- おゆみの診療所
- 介護老人保健施設おゆみの
- おゆみの居宅介護支援事業所
- 千葉市あんしんケアセンター鎌取

